

第9(10)回運営会議議事概要(1/5)

<p>議事項目</p>	<p>第9回福島・毛馬管内運営会議 平成22年2月16日(火) 14:00~17:00 OMMビル13F 河川環境管理財団会議室</p>	<p>第9回枚方管内運営会議 平成22年2月22日(月) 14:00~17:00 中央流域センター2F多目的ホール</p>	<p>第10回高槻・山崎(大阪)管内運営会議 平成22年2月23日 14:00~17:00 中央流域センター2F多目的ホール</p>	<p>第9回伏見桂川山崎(京都)管内運営会議 平成22年2月25日 14:00~16:30 上流域センター2F会議室</p>	<p>第9回木津川管内運営会議 平成22年2月24日 14:00~16:30 京田辺社会福祉センター会議室</p>
<p>出席者(代理および欠席者数)</p>	<p>見識者(出席3、欠席1)自治体委員(出席3、欠席1)河川レンジャー(出席8)出張所(出席2)事務局(9)</p>	<p>見識者(出席3)自治体委員(出席2、欠席2)河川レンジャー(6)出張所(出席1)うち代理1)事務局(6)</p>	<p>見識者(出席3)自治体委員(出席4)うち代理2)河川レンジャー(出席6)出張所(出席2)事務局(8)</p>	<p>見識者(出席4、欠席1)自治体委員(出席7)うち代理1、欠席5)河川レンジャー(出席8)出張所(出席3)事務局(10)</p>	<p>見識者(出席2)自治体委員(出席6、欠席2)河川レンジャー(出席4)出張所(出席1)事務局(7)</p>
<p>会議や活動の活性化に関する事項</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・自治体委員が会議の中で積極的に発言して欲しい。 ・自治体委員が平日にレンジャー活動に参加できる企画をしてはどうか。(事務所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿川自治体委員からの発言がいただきたい。 ・河川レンジャーはイベントだけでよいか、という問いかけがある。酒井Rの活動はレンジャー活動の原点のひとつとして評価できるのではないか。 ・運営会議の活性化を含めて、行政委員のレンジャー活動への参加・招待を考えてはどうか。 ・自治体委員としては活動イベント開催日を把握したい。メールなどで情報が欲しい。 ・レンジャー活動で分野や対象の広がりができている。これは新規レンジャーによる効果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本会議の委員は、チャンスがあれば、レンジャー活動に参加してはいいかだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・試行とは見習い期間のことだろうか。そうすれば「再任」ではなく「新任」ではないか。 ・レンジャーとして「再任」と考えてほしい。(事務所) ・自治体の委員には、一度レンジャー活動の現場に来てもらいたい。新年度からよろしくお願ひしたい。
<p>レンジャー応募者の増員に関する事項</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャーの募集について今はハードルが高いのではないか。もう少し楽な形で入ってもらえないか。必ずしもオールマイティでなくてもよいと思う。 ・素質のある人を入れて、その後で研修してもらうことがねらいである。(事務所) 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいレンジャーの推薦が欲しい。広報誌などでの募集をかけてはどうか。 ・レンジャー募集の情報をどのように伝えるか。とくに水無瀬川沿川(大阪府管理島本町域)。 ・現在山崎出張所大阪府管内にレンジャーがいない。どうしても欲しい。 ・島本町では自治会、各種団体住民委員会などでレンジャー情報を提供したい。住民のなかから応募する人がでてくるのではないか。 		<ul style="list-style-type: none"> ・防災関係に詳しい人がいない。熱心な人がいれば、公務員でも将来的にレンジャーとして考えてよい。

議事項目	第9回福島・毛馬管内運営会議	第9回枚方管内運営会議	第10回高槻・山崎(大阪)管内運営会議	第9回伏見桂川山崎(京都)管内運営会議	第9回木津川管内運営会議
参加者の増員に関する事項		<ul style="list-style-type: none"> ・企業組織とレンジャー活動の融合を目指すレンジャー活動を行っている。 ・企業との連携のつくりかたが課題である。 ・最近、大学の河川ゴミなどの研究ゼミと連携をとる活動を行っており、ゼミ学生さんの動員が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャー活動参加者を増やすことについては人手・コストがかかるので、適正な手段を考えることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で長期宿泊体験会が計画されている。レンジャーとしての取り組みができないかと考えている。 ・22年2月14日のクリーン作戦は100団体2800人の参加があった。121トンのゴミを回収した。 ・マイリバーウオークでの愛護会づくりは横大路地区で結成の気運がある。 ・楽しみながらできる防災訓練ができないか考えている。 ・濠川のクリーンアップは集中的に一時に行う予定であるが、どちらか1ヶ月ずつずらしてはどうか。 ・時期的に参加者が集まりやすい学校開放日でもある。多くの人に意見を聞きながら進めていきたい。 	
レンジャー活動の周知に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャー活動への参加者は20年度9000人、21年度17000人、桂川クリーン作戦はおおむね3000人と、実績はある。レンジャー事業そのものは、これから求められる社会の方向に沿っている。(事務局) ・レンジャー活動は自分で企画し、工夫して開拓していく力がある。会議で承認を受けてステップアップしていくプロセスもある。すぐに認知されることは難しく、継続していくことが大事である。 ・活動に参加してみても始めてレンジャーというものが分かる。口コミで広がっていくのではないか。 ・人脈は日頃から大事である。川にとらわれなくてよい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・河川における危険監視活動はゼロから出発したが、行動をとましてくる人が出てきたことは喜ばしい。 ・三島江切り下げ意見交換会はマナーやルールの現状を共有化して対応を考えようというものだ。今後うまくまとめていきたい。 ・ヨシを刈って育て、収穫する。ヨシを管理して大切さを伝える。ヨシ焼きは灰害が起きないように配慮している。 ・22年8月には出前・押しかけ講座を予定し、安全指導の話をしたい。既存のイベントに30分程度相乗りしたい。 ・その資料として危険地点が分かるマップを整理したい。 ・日頃声掛けしている人と、「河川利用見守り隊」をつくり、不法・迷惑行為をパトロールしたい。 ・島本町域での「見守り隊」の活動が欲しい。 ・6月に予定している土のうづくり活動では地元の人々の体験談や「水風船投げ」を予定している。また、10月には川と河川の対話をテーマに車いすの人を呼び込む計画がある。いすが通過した跡に白いラインがつくイベントを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東高瀬川で菜の花プロジェクトを進めたい。 ・「かわみ」の成果をもとにミニ新聞を計画している。 ・西羽束師川の下流の未改修区間の「かわみ」を予定している。 ・濠川の清掃奉仕に参加したが、ゴミが取りにくい場所にある。子どもさんとともに川遊びの楽しいところを知っていただきたい。 ・濠川・宇治川下流は平成16年からアジサイ・ユキヤナギの植樹を行った。府土木事務所は草刈り作業の際、それらの刈り取りをしないよう配慮してほしい。 ・ユース河川レンジャーとは一過性の活動ではなく、若い人に呼びかけて、川をテーマに活動していこうというもの。現在、数団体に声掛けしており、まちづくりに広げていきたい。 ・クリーン作戦のきっかけは11月の環境フェスティバルでの他団体のブース訪問による交流で「みんなでなにかやろう」と知恵を出し合っただけだった。マイリバーウオークについてもまとめていくうえで、是非知恵を授けていただきたい。 ・府民に話をする機会や、府民新聞に記事を書くなど、レンジャー活動のテーマを訴えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・船からみる淀川は上から川を見るようすとまったく違うことが分かった。 ・河川敷の公園利用者に川の環境を伝えて、環境保全のプランづくりをレンジャーとともに作るべきときに来ている。コツコツ積み上げていきたい。

第 9(10)回運営会議議事概要(3/5)

議事項目	第 9 回福島・毛馬管内運営会議	第 9 回枚方管内運営会議	第 10 回高槻・山崎(大阪)管内運営会議	第 9 回伏見桂川山崎(京都)管内運営会議	第 9 回木津川管内運営会議
事業連携の提案に関する事項		<ul style="list-style-type: none"> ・出張所長と話し合いながら進めていかないとレンジャーだけの活動では限界があるのではないか。 ・22 年 2 月に、庭窪の自治会長から協力の申し出があった。レンジャーからも積極的に情報提供していきたい。 ・枚方には 6 つの大学がある。大学とのつながりはどのように深めているか知りたい。 ・大学とは個人のブログでつきあいをしている。また、ゼミでの研究テーマを情報共有している。 ・なぎさ高校との連携は他につながっていくのではないか。 ・高校での活動は 1 時間だけでなく 3 時間確保したい。 ・高校での活動に歴史的な視点を入れていくのはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芥川水辺 100 景写真とディスカッションの開催で芥川に係わる気運ができるのではないか。 ・大阪府に地域支援課がある。防災の啓発でレンジャーとの連携を図りたい。 ・以前にレンジャー全員が一同に会して事業をやる計画があったが、その後の進展はいかがであるか。 ・8 月末に大塚の河川公園での防災演習と連携して、何か合同で活動できるのではないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東高瀬川の整備に地域をどう巻き込んでいくかが課題である。京都市としてサポートあるいはフォローしていきたい。 ・桂川右岸の 3 つの学区は京都市に編入されて 60 周年を迎えた。水と密接な取り組み(農業など)がなされてきた歴史がある。 ・クリーン作戦はレンジャーが頑張らなくてよい。地域の我々(自治会)自身がやる清掃活動として、意識的・日常的にゴミを減らすことが大事だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 月の木津川展は、三人のレンジャーの活動の集大成となった。 ・木津川市観光協会ネットワークには 48 団体が参加している。各自治体も同じような取り組みをやっていただくと、レンジャーも参加できるのではないか。 ・四月の馬坂川花見は聴覚障害者の誘致や結婚活動カヌーを実施したい。 ・親子川の学校は今年度スクール制にし、定員 40 名で親子募集したい。 ・スクール制は有料でもよいのではないか。参加賞の授与、テストの実施など、無償だとやめる人が出ることも考えられる。 ・流れ橋の周辺に川や歴史の話ができる人がいるので、希望者は谷口委員まで連絡してほしい。 ・流れ橋の歴史は四季彩館で見られる。 ・11 月末に開催される城南衛生環境組合のイベントに水槽などの展示を考えてはどうか。
自治体の支援に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年 9 月「津波・高潮ステーション」を開設した。レンジャー活動の防災拠点として活用願いたい。参加者 20 ~ 30 名であれば事前の予約により、説明者をつけたい。 		<ul style="list-style-type: none"> ・高槻市として直接できること、スタッフとしてできることなど相談して欲しい。窓口になる。 ・沿川自治体での窓口の一本化を進める。 ・三箇牧公民館の利用申し込み(無料)は 6 ヶ月 ~ 1 年前からできるが、競争が厳しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政サイドで PR 応援体制があればレンジャーも報われるのではないか。 ・役所にレンジャーが直接訪問することは可能か。(いつでもどうぞの声あり) ・京都市のまちづくり課長会という会合でレンジャー活動のプレゼンテーションをすることが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・レンジャーは行政と住民をつなぐ役割をもつので、各自治体でも積極的にレンジャーを活用して欲しい。 ・京都府山城北土木事務所管理室では、馬坂川で階段設置の要望に応える地元協議を考えている。1 箇所程度恒久施設として考えたい。レンジャーには協議の窓口としてお願いしたい。 ・流れ橋の復旧工事は 2 月 22 日から 6 月 15 日まで行。工事中の見学は府土木事務所道路計画室に申し込んで欲しい。 ・木津川市から活動場所としての提案は以下のとおり。 (1)一級河川山田川(山城南)親水公園・・・奈良県区間の堤防天端道、ファブリダム (2)一級河川煤谷川上流祝園弾薬庫跡防水調整池・・・水深 60 cm で乗船体験できる。土木事務所の許可必要。

第9(10)回運営会議議事概要(4/5)

議事項目	第9回福島・毛馬管内運営会議	第9回枚方管内運営会議	第10回高槻・山崎(大阪)管内運営会議	第9回伏見桂川山崎(京都)管内運営会議	第9回木津川管内運営会議
活動で困ったこと、あるいは改善すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> 現在の活動に参加者が集まりにくい。今後は淡水魚や川自体を目に触れるような活動をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然観察のやり方を整理して、講師の体力的負担を軽減したい。 整備計画にある、地域の学校との連携を進めていきたい。 参加者を増やしたいが、広報活動ができてないので改善したい。 活動への参加者が高齢化しており子どもさんの参加が少ないので改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 河川敷地での意見交流会は、テントなので寒さ対策で苦労した。河原でやるほうがよいという意見があった。 河川敷での会議用テント設営は経費がかかることが分かったので、既設の公共施設を使うことを考えていきたい。 		<ul style="list-style-type: none"> 野鳥観察会に子どもさんの参加が少ない。
ツールに関する事項	<ul style="list-style-type: none"> レンジャーの身分を明らかにした名刺などにより、第三者に認知されているのだろうか。 活動では腕章・旗を持つことになっている。 名刺に写真を入れている。(事務局) 	<ul style="list-style-type: none"> 野外調査の報告書における、生物の名称の間違いに注意してほしい。 一言メモの活用は新しい「気付き」を呼ぶと思う。自分の行く道が見えるメモになる。 胴長のレンタル費用の精算はどのようにしているか。 胴長は河川事務所、寝屋川水辺クラブほかからの借り受けに依存しており、レンタル費用は発生していない。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動中のケガなど、保険について教えてほしい。 イベントに関して保険に入っている。(事務局) 	<ul style="list-style-type: none"> ジュニア河川レンジャーでは、京都教育大学と連携した教材開発を行い、伏見の洪水模型をビデオ化した。 	<ul style="list-style-type: none"> 馬坂川でのイベントではボートが立派すぎるので、竹を組んで筏を作ってもよいのではないか。
広報に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> レンジャー活動の認知度は低いので、自治体に働きかけて、PRを考えていく必要がある。(事務局) 淀川区のパンフ「よどがわ」に、今後発展する事業として紹介していきたい。誌面の決定から発行までに1ヶ月かかるので早めに相談をかけた欲しい。 「野鳥カルタ」は希望者に贈呈している。データのコピーに協力してくれるパソコンを求めている。(出張所が応諾) 	<ul style="list-style-type: none"> チラシの作成が不得意な場合、センターレンジャーにお願いすれば作ってもらえるか。 チラシ作成の絵コンテは作って欲しい。(センターレンジャー) 一回でも参加した人とのネットワークをどう作るか。良さを知った人は再び来やすい。ブログ、メーリングを活用するレンジャーはすごいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 高槻市は毎月10日、25日に機関誌を発行している。希望者は1ヶ月前に原稿を出して欲しい。詳細は編集部に聞いて欲しい。 高槻市ケーブルTVでの広報チャンネルを活用して周知する部門がある。レンジャー情報を教えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 広告誌の掲載スペースが不況のあおりを受けて減少してきており、レンジャー活動が掲載してもらえない。 2月の宇治川自然観察活動は二つの新聞、宇治面で掲載された。 タウン誌「ザ・伏見」にジュニアレンジャー活動を掲載された。 伏見区民新聞に掲載欄は考えられないか。(3月発行は可能との回答あり) 	<ul style="list-style-type: none"> 河川レンジャーの活動を知る人は随時調査4%程度で、認知度が足りない。 京都府地域力プロジェクトの助成により福井・田中レンジャーとやましろ里山の会が作成した下敷きの紹介。1000枚作成。
淀川の今後に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 淀川に国立公園第4種、例「みおつくし国立公園」を誘致してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 明治18年洪水碑の移設は22年3月の予定。郵便屋の碑の向かいに設置される。 河川は社会的なインフラであり、生命や財産を守る。人との関係を含めて考える必要がある。 淀川100年の歴史を語る人が少ない。船下りのなかで話をするのはどうか。 牧野ワンドの将来の形について知りたい。 樟葉・牧野わんどの整備はセットで考えていきたい。(事務所) 点野わんどは浅くなっている。大切な活動の場であるので、水質の話も合わせて勉強していく必要がある。 		<ul style="list-style-type: none"> 近畿のツバメは宇治川のヨシ原に集合する。生徒だけでなく、先生も観察を楽しみにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 木津川の水質は10年前の二倍の悪化が見られる。また、放流したアユが育っていない。泥(シルト)が付着し、魚への影響が見られる。木津川の抱える問題が明らかになった。

第 9(10)回運営会議議事概要(5/5)

議事項目	第 9 回福島・毛馬管内運営会議	第 9 回枚方管内運営会議	第 10 回高槻・山崎(大阪)管内運営会議	第 9 回伏見桂川山崎(京都)管内運営会議	第 9 回木津川管内運営会議
展開計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・下流部は活動拠点として空白域になっている。 				<ul style="list-style-type: none"> ・流域で活動できる人がいない、地元とかかわる識見がないなど、応募の見合わせが続いている。自治体関係で、バイタリティのある人がいれば、是非応募してほしい。
外来種について		<ul style="list-style-type: none"> ・初回の外来種水草除去は役割分担が不十分で参加者からの苦情があったが、2 回目は水域と陸域に分担し、達成感を得ることができた。 ・水中作業は高齢者にはしんどい。若い力の協力が必要である。 ・回収した水草などを運搬するボートの借り受けを大阪府水生生物センターほかに依頼している。 ・外来水草の効率的な除去のため、重機の活用、駆除船(大阪工大開発)への協力依頼などを考えたい。 ・外来種など除去物の処理方法は国が対応すべき問題である。 ・土のう袋などを水草回収用として活用してはどうか。水切りできる。 ・水生植物とはなにか。今後掘り下げた勉強会をやりたい。 ・外来種を含めた自然を考えられないだろうか。 ・外来種は全部ダメというわけではないが生態系をくずすような繁殖力が問題である。 			<ul style="list-style-type: none"> ・木津川にタイワンシジミが普及している。家庭や飲食店などでの貝の砂抜きの際に 1mm の稚貝が流れ出たもの。過去の変化だけでなく現在進行中の情報を付加する。